

令和5年度

横手食育見聞録 優秀作品集

市内小学校5年生が、
ふだん農業に対して思っている
ことを作文、図画にしたものです。
ぜひとも、子どもたちの純粋な
気持ちを感じてみませんか。

目次 (Contents)

食農教育の推進に向けて	
作文の部	
最優秀賞	・・・ P 1
優秀賞	・・・ P 2 ~ 6
図画の部	・・・ P 7



横手市農業委員会

食農教育の推進に向けて

横手市農業委員会

当会では、多様な農業情勢に対応するため、三つの委員

会を設置しています。その中の、広報・食農推進委員会では、食育教育に必要な情報提供活動や、地域における実践活動を推進しており、その一環として、教育委員会と連携し、「横手食育見聞録作文・図画コンクール」を平成十八年から継続して実施しております。

今回で十八回目となるこのコンクールは、小学生が自ら「食」について考える習慣を身につけ、生涯を通じて健全な食生活を実現することが、心身の発育上、大切であるとともに、ひいては今後の農業振興に役立てるためとしております。

また、総合学習等に基づき、何らかの農業に関する学習を実践している小学校五年生を対象に「自らの農業体験」や「ふだん、農業について感じていること」を作文、図画にしている。優秀作品については表彰するとともに、広報誌「横

手市農業委員会だより」や横手市ウェブサイトへの掲載、横手交流センターY2(わいわい)ぷらざや横手公園展望台(横手城)企画展にて展示するなど広く公開し、市民に食育の重要性を働きかけてまいりました。

今回、応募作品が作文の部で一〇三点、図画の部で二八二点あり、十名の審査員による審査の結果、作文の部で最優秀賞一点、優秀賞五点、図画の部で最優秀賞一点、優秀賞五点、特別賞一点が決定したところです。

今回の作品も選考段階で甲乙つけがたい内容であったとともに、作品を通じて、小学生の視点から見た農業に対する思いを、ぜひともご覧いただければと思います。

この作品を通じて今一度食について考え、家庭における規則正しい食生活が大切であることを考えていただく機会として、この作品集が何かのお役にたてれば幸いです。

最優秀賞

「科学でおいしい野菜を全国に」

横手南小学校 武藤 悠理
むとう ゆうり

ぼくの趣味は家の畑で野菜を無農薬で育てることだ。毎週NHKの「野菜の時間」を録画してくり返し見ているし、机の上には昨年八月にもらった「野菜の時間」講師の藤田智先生のサインがかざってある。どんな野菜でもひよひよいと上手に栽培する藤田先生の技にはあこがれずにはいられない。

野菜は本当に奥が深い。大根のくきがとても短くて意外なところにあったり、ネギの根っこや、トマトのわき芽を土にさしておくともた生えてきたり、身近な野菜でも知らないことだらけだ。そんな野菜をこよなく愛するぼくに二年連続で悲しいことが起きた。ぼくが一番好きな野菜のトマトが一昨年は恐ろしい青枯病に、今年はどうんこ病にかかってしまった。特に青枯病の時は、病気に気づくのがおくれて、トマトが全めつってしまった。ぼくは野菜作りの才能がないかもしれないと、とてもショックを受けた。そんなぼくに、母が横手市園芸拠点セ

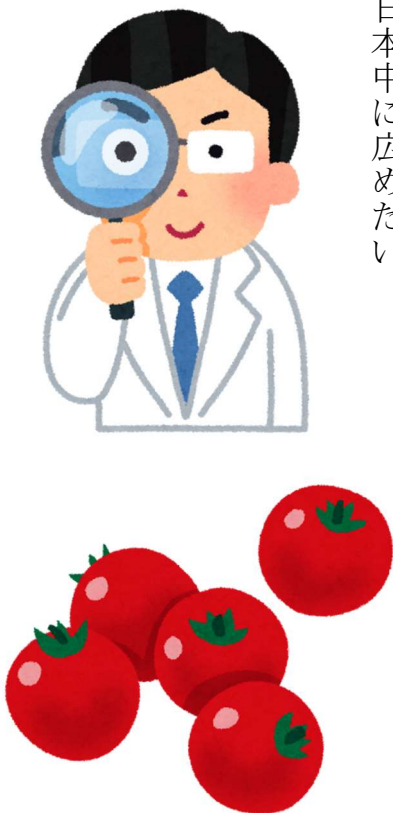
ンターで、夏野菜の栽培講習会があると教えてくれた。

その日は学校があつて行けなかったから、ぼくは、母にお願いして、病気の治し方を聞いてもらおうことにした。

栽培講習会では、接木苗は植穴に深く埋めるのではなく、高く植えることが必要だとか、ゴールデンウィークに植えるのは横手では早すぎることなど、目からうろこの情報をたくさん教えてもらった。拠点センターの先生は、まるで野菜のお医者さんのようで、かっこいいと思った。

トマトの病気を通して、野菜作りは科学なんだと気づいた。病気にも、豊作にも、あまい味にも全部理由がある。もつと野菜のことを勉強して、知りつくせば、病気を予防したり、治したりして、きっとぼくにも、おいしい野菜作りができるはずだ。

ぼくは将来、農家になりたい。そのためにも、大学で野菜についてしっかり勉強して、横手のおいしい野菜を日本中に広めたい。



優秀賞

「農業の大切さ」

横手南小学校

田畑 たはた

佑樹 ゆうき

ぼくは、おばあちゃんの家でぶどうやりんごの収穫を手伝ったことがあります。おじいちゃんから、どのような状態になったら収穫できるか、きず付けないようにどのようにに収穫すればいいか教えてもらいながら収穫しました。

落とさないように、きずを付けないように収穫するのはきんちょうしました。りんごの収穫は手でおこないましたが、手がすべって落としてしまったこともありました。でも、おじいちゃん、おばあちゃんはやさしく、

「いいよ、いいよ。」
と言ってくれました。

とれたてのぶどうやりんごを果樹園で食べたときは家で食べるのちがい、とてもおいしかったです。おじいちゃんとおばあちゃんから、「手をかけて愛情をかけるからおいしんだよ。」と教えてもらいました。食べる

のは一しゅんだけど、食べられるまでは何か月も手入れをしていることを教えてもらいました。

おじいちゃんが亡くなり、去年おばあちゃん一人では果樹を続けることができないと、全部木を切り栽培をやめてしまいました。手がかかるとなので、できる人がいないと続けられないということが分かりました。おばあちゃんの家は果物はどれもおいしかったので残念です。

作る人が健康で、それを支えてくれる人がいなければ続けていくことは難しいと思いました。ずっと続けてもらうにはどうしたらいいのだろうかと考えました。農作物を作ることは大変です。生活もしていかなければなりません。作業でここは人手がいるなどということにみんなが手伝えることで何か力になれることもあるのではないかと考えました。そのためにも、農業の体験をすることは大切だと思いました。



優秀賞

「お姉さん」

増田小学校

なかむら 中村

はる 春花

「今年の総合では、お米を作りますよ。」

先生は、一番初めの授業でそう言った。みんな、いろいろな質問していたがわたしは不安になって固まっていた。なぜなら、その時のわたしはお米のことについてほぼ何も知らなかったからだ。「田んぼで作る」とは知っていたが、5年生が本当にお米を作るのか、とっても不安だった。

不安なまま、農業体験当日をむかえた。増田高校のお兄さんお姉さんと一緒にやるらしく、わたしはちよつと安心した。農業体験一回目は種まき。これがおかしいと、苗もおかしくなる、大切な作業。きんちようしながらやろうとしたら、お姉さんが、

「ちよつとぐらいまちがっても大丈夫だよ。」と言ってくれた。その言葉で不安もきんちようもふつとんだ。「まちがってもいい」と思いながらだと不思議と集中して取り組めた。すごくつかれたけど、楽しかった。

お姉さんのおかげで不安だった農業体験も楽しくなり、二回目、三回目、四回目も楽しく終わらせることができた。

いよいよ五回目。わたし達はもう一回あるけど、高校生の人達はこれで終わり。つまりお姉さん達と会う最後の機会。内容はお米を食べることと、質問。わたしはいっぱい質問した。みんなもいっぱい質問していて、全ての質問にニコニコ笑顔で答えるお姉さんがすごいと思っただ。

この農業体験では、たくさんのお米のことを教えてもらった。まず、お米のことについて。もう一つは、人として大切なことを教えてもらった。わたしは、この農業体験でお姉さんに会えてよかったと思う。お姉さんがいなかったら、農業体験も楽しいどころかいやなものになっていたと思う。

わたしは、もうすぐ六年生になる。お姉さんのようなリーダーになるため、五年生の今から心がけていきたい。



優秀賞

「土を守る大切さ」

雄物川小学校 後藤 美咲
ごとう みさき

私の家は代々続く農家です。お父さんは五代目だそうですね。ずっと昔、今から六、七十年前までは、米を作って貧しいながらもなんとか生きてゆくことができたそうです。そこにある田んぼや畑を耕して、米を植え、豆を植え、野菜を植え、そこでとれた物を大事に食べていたそうです。

今は昔の人の工労も知らずに、まだ食べられる物もすててしまいます。昔の人はどのように感じるのでしょうか。昔は土地を大切に使い、田んぼのあぜ道にも豆などを植えていたそうです。今は何も植えていない畑が多くあります。草がたくさん生えています。

私は四年生でスイカ、五年生で米を作りました。今は機械などを使って簡単に土地を耕やしたり、植えたり、作業をしたりします。けれど、自分で手作業で植えて、JAの方などたくさんの人達に手伝ってもらうことで、おいしい作物を作れました。作物を収穫したときの達



成感はずごかったです。その時に、昔の人達は苦勞して植えて、大事に育てて、収穫できた作物に感謝して食べたのだと気づきました。

昔の人はそこにある土を生かして生きてきました。

土があれば人は生きていける。そんな昔の人達の考えは、これからも大切な考えだと思いました。人は食べなければ生きていくことはできません。今の時代はお金さえあれば何でも買えます。物であふれています。でも、こんな時代は永久に続くのでしょうか。

私は農家は日本の大切な産業だと思います。やはり、日本の水田や畑は日本の宝物だと思います。

優秀賞

「食べ物の大切さ」

雄物川小学校 矢野 暖和

ぼくの家ではお米を作っています。ぼくは自分の家でとれたごはんの味がとても大好きです。

ある日、ぼくはねぼうして朝に起きるのがおそくなってしまうました。学校に行く時間に間に合いそうになかったのです、朝ごはんを残して生ごみのごみ箱に捨てようと思いました。すると、おじいちゃんに

「お米一粒作るのにどれだけの手間と時間がかかっているかと思っているんだ。お願いだから、そういう事はもうしないでくれ。」

と悲しい顔で怒られました。おじいちゃんにそう言われた時、ぼく自身も悲しい気持ちになりました。そして、はっと気づきました。

おじいちゃんはお米を作る時期になると、朝早く起きて田んぼに行ったり、みんなが夜ごはんを食べる時間になるとその時も田んぼに行ったりしていました。ぼくが休みの日にも畑で農作業をしていたり、夏の暑

い日にもぼくがエアコンのきいたずしい部屋でゲームをしている中、おじいちゃんは外で汗だくになって草かりや除草剤ふりなどの農作業を一生けん命ががんばっていました。おじいちゃんのがんばっている姿を思い出したので、おじいちゃんがぼくに言ったことにさらに重みを感じ、ぼく自身も反省しました。

おじいちゃんに言われたこともあって、今では前以上に食べ物の大切さを理解し、毎日の食事ができることに感謝しています。そして、時間があたらおじいちゃんの手伝いをしたいです。



優秀賞

「農家さんに感謝」

山内小学校 照井 直生
てるい なお

私の祖父母はぶどう農家です。秋になると、様々な種類のぶどうが実ります。祖父母の作ったぶどうは甘くておいしいので、大好きです。特に、藤稔が好きです。

総合的な学習の時間に、祖父母にインタビューをした時に、ぶどうを収穫するまでにはたくさんの方が関わっていることを知りました。その中で、私は「袋かけ」を手伝ったことがあります。袋かけは、虫や動物、病気からぶどうを守るためにする作業で、ぶどうの一つ一つの房に紙の袋をかけていく作業です。暑い時に、立ちっぱなしで、ずっと上を向いているので、とても大変でした。おいしいぶどうを作るためには、地味で大変なこともやらないといけないんだなと思いました。他にも、雨が多なくても少なくとも心配しているし、今年はクマの被害も大きくて、大変なことが多いのだと思います。自分で袋かけをしたぶどうが実った時はとてもうれしくて、大事に食べました。

家の横には小さい畑があります。今年は大好きなオクラをたくさん植えてくれるようにお願いしました。トマトやきゅうりはみずみずしくて、スーパーで売っているものとはちよつと違います。必要な時にパッと取りに行くことができます。祖父母が大切に育ててくれた野菜です。

畑でとれた野菜やぶどうを食べながら、他の野菜やお米も同じだということに気づきました。私がふだん食べているものには、農家の方たちの苦労や思いがこもっていると思います。畑の手伝いを毎日することは難しいですが、おいしい野菜やお米を食べられることに感謝して、大事に食べようと思います。



第18回横手食育見聞録図画コンクール優秀作品



【最優秀賞】吉田小学校 さとう たまえ 佐藤 瑠笑 「友と一緒に稲刈り」



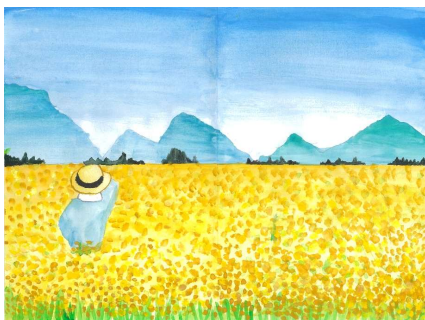
【優秀賞】横手南小学校 みずたまりまゆこ 水溜 万柚子 「おばあちゃんと私のなす畑」



【優秀賞】横手南小学校 みうら いづき 三浦 維月 「太いネギを作る天才おばあちゃん」



【優秀賞】増田小学校 ふくだ かすみ 福田 花純 「みんなでつくった米」



【優秀賞】雄物川小学校 しばた わかな 柴田 和奏 「稲穂に囲まれて」



【優秀賞】大森小学校 ささき ゆずは 佐々木 結珠羽 「米作り」



【特別賞】横手南小学校 こんの しゅか 今野 珠華 「花ずし」